



▶ 4

大淀町の新興住宅地に立つ農業施設は、まるで大学の実験室のようだ。214平方メートルの室内に高さ約3メートルの6段のラックが六つ並び、各段に据え付けられた蛍光灯が、無農薬で栽培されている「フリルレタス」のみずみずしい緑の葉を照らし出す。近畿の各スーパーから注文が相次ぐヒット商品は、意外なところで作られていた。

連携して手がけるのは近鉄、総合商社の丸紅、近畿大農学部。沿線の遊休地や高架下の活用方法を模索していた近鉄と、栽培技術を実践する場を求めていた丸紅・大学の思惑が一致した。2012年3月、近鉄が同町の約1万5000平方

産学連携 新たな農業



徹底管理 鉄道マン挑戦

材の社有地に農業施設の建設を始め、8月から同大学農学部教授の宇都宮直樹さん(65)に指導を受けて葉物野菜を作るほか、太陽光を利用する農業ハウスでトマ

トの栽培を進めている。近鉄資産活用事業部長の山本寛さん(45)は「広い土地があり、大消費地に近い奈良は農業に最適」と語る。温度や湿度、栄養素を人

工的に管理して、一日16時間ライトを照射する。園芸用の土と粘土で作った有機人工土壌にレタスを発芽させる方式で、天候や病害虫に悩まされることなく年に

13回、収穫できる。1パック129円と露地物より3割ほど高いが、12年度の約5万株から2年目の13年度は6倍、約30万株の販売を目指している。

責任者の寺岡隆之さん(56)は30年来の鉄道マン。スタッフ28人にとって、すべてが初体験だ。「鉄道も農業も同じで、手抜きすると絶対にマイナスに返ってくる。生き物相手に難しいが、徹底して安全を追い求める鉄道マンに農業は案外、合っている」と寺岡さんは語る。

◆県内の食の産学連携

大学	事業名	内容
奈良女子大	奈良の食プロジェクト	ホテルなどと連携して大和野菜や奈良漬のメニューを開発
畿央大	県中央卸売市場との包括連携	大和肉鶏やヤマトポークなどを使ったメニューを共同開発
	橿原市・橿原商工会議所との連携	藤原宮跡ゆかりのショウガ商品の開発
帝塚山大	サークルKサンクスとの連携	県産食材などを使ったオリジナル弁当の開発

「シャキシャキしています」。フリルレタスの出来を確認하며笑顔を見せる寺岡さん(右)と山本さん(大淀町で)

近鉄のグループ会社「近鉄旅館システムズ」(奈良市)の食材偽装は、築き上げた信頼が一瞬で失われることを見せつけた。グループの一員としてその重さを真摯に受け止めた山本さんと寺岡さんは「消費者を裏切らない新しい形の農業を確立し、本物のおいしさを全国に発信したい」と決意を語る。(守川雄一郎)